

# 教育・保育者養成におけるピアノ教本のあり方と方向性

～オリジナル教本『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』をめぐる～

本廣 明美、加藤 照恵\*

## The Present and Future of Piano Textbooks in a Teacher/Nursery Teacher Training Course: With Reference to the Original Textbook Titled “Let’s Enjoy Famous Piano Pieces With Children”

Akemi MOTOHIRO, Terue KATOH

### 1. はじめに

戦後日本には、多くのピアノメソッドやシステムが導入され、日本の音楽教育に多大な影響を与えてきた。今日においても、楽器店やインターネットを覗けば多くの教本が発刊され、選択に迷うほどである。子ども対象の導入教材で、メジャーな教本を例に取れば、誰もが一度は耳にしたことのあるドイツの『バイエルピアノ教則本』や、フランスの代表的な教本である『メトード・ローズピアノ教則本』がある。また、ハンガリーではコダーイ・システムから生まれた教本や、アメリカにおいては、一般的なものとしてトンプソンやグローバーの教本がある。より近代では、移調を容易にする全調教育バスティン・メソッドといった、新しいメソッドとともに教材が開発されており、ペース・メソッドなど独特な教育理念を持つものなどもある。テクニクやエチュードに関する教本と言えば、ハノンやツェルニーのピアノ教本や身体表現からのイメージを元に、テクニクを習得させるバーナムによる教本など数え切れない。また、次のステップで、『バイエルピアノ教則本』の上のレベルに位置づけられているオーソドックスな教本と言えば、『ブルグミュラー 25の練習曲』や『ソナチネアルバム』、『ソナタアルバム』であろう。

これらの多くは、対象である子どものためのピアノ教育を、スムーズに行うため開発されたメソッド、または教材なのである。そのため、これらの教本を教育・保育者養成のピアノ教材として考える場合、どれか一つだけを取り上げ用いるのでは、指導するには不十分であり適切であるとは言い難い。多くの教育・保育者養成校では、これらの教本をメイン教本として用いながら、子どもの曲や、現場でよく使われるマーチやワルツを補助的に使用しているのが実状である。

このような現状を目の当たりにし、対象者が教育・保育者養成の学生であるにもかかわらず、子どもを対象にした教本をそのまま使用して良いのか、今一度、彼らにとってどのような教材や教本がより適切であるのか検討する必要性を感じた。この思いを元に、試行錯誤を繰り返しながら継続的に研究を重ねてきた。その結果、学生のためのピアノ導入教本である『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の 基礎から学べるピアノ 1, 2, 3』<sup>1)</sup>と、表現力の養成に主眼をおいた次のレベルの教本として『保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』<sup>2)</sup>(以

\* 山口芸術短期大学

下『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』と表記する)の2冊を完成させ、その後も改訂を繰り返してきた。

本稿はこのオリジナルピアノ教本の2冊のうち『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』を取り上げ、内容と方法論を提示し、教育・保育者養成における教本のあり方と方向性について提唱するものである。

この本を制作するに当たって以下の2つのコンセプトを掲げた。

一つは既存の多くの初心者教本や題材を参考に、教材の中にピアノ力の養成のための重要な要素を織り交ぜ組み立てていくこと。

二つ目は、教育・保育現場でピアノ教材を生かす音楽活動を想定し、題材、教材を新たな発想で捉え直し、ピアノ力養成に努めること。つまり、ピアノ曲を現場において、どのように応用、活用させるのか、発展的かつ実践的な視点をも踏まえたピアノ曲の展開法を提案するものである。

## 2. 教材の捉え方

教育・保育現場での音楽活動で使用される教材とえば、多くは歌唱教材である。そのため、学生の歌唱指導においては、どのような子どもの歌や唱歌を教材として取り上げるべきか現場の実態から容易に導き出すことができる。

一方、ピアノ指導の教材について考えると、教育・保育現場ではピアノ曲自体を使って活動を行うという場面が極めて少ない。ピアノの活用場面としては、伴奏としての使用が多く、特に歌唱時における伴奏が大部分を占める。式や行事においても、リトミックや身体表現、合奏においてもピアノ伴奏としての役割が多い。そうした状況から、保育者養成校の中には、伴奏力養成に重きを置くあまり、歌の伴奏譜をそのままピアノ教材として使用する例も見られる。

しかし、ピアノの教育・保育現場での役割を考えた場合、実際は伴奏だけではなく、より幅広い音楽活動に使うことができる可能性を秘めていると思う。また、そうでなくてはいけないと考える。ピアノ力が教育・保育現場で幅広く活用できるよう、ピアノ教本の開発やピアノ教材の捉え方の工夫が求められており、筆者らはそれらを担う責務を強く感じている。

では、どのようなピアノ教材がふさわしいのであろうか。養成校の多くは小さい子どもを対象とした『バイエルピアノ教則本』や『ブルグミュラー25の練習曲』などを使用し、指導方法も画一的であると思われる。優れた教材であることは言うまでもなく、これらを使用して奏法技術は確かに養成される。しかし、現場で必要なピアノ力としての視点で見た場合、どのような力が必要で保育にどのように活用していくかの議論が十分なされていないまま、教材として使用されているのではないだろうか。また他の教本の使用についても同様である。多くは曲が弾けるか弾けないかということだけに、指導の目が向けられてしまっている現実があると思われる。

教育・保育者養成のピアノ指導においては、“子どもとの活動”という観点における題材感が必要であり、どういう教材でピアノ力を養成するかが非常に重要となってくると考える。まず、その教材において教授する音楽要素を認識させること、それに加え、ピアノ教材をどう現場で活用できるのかという視点を持って学ばせることが、子どもの音楽活動に必要なピアノ力の獲得につながるという考え方である。ピアノ曲をどう弾くのかという前に、何を学習するのかという目的

意識を持ち、学生自身が子どもや現場を想定し、その題材観を持ってピアノの練習に臨むことが、学習意欲の向上にも繋がるものだと考える。

### 3. 教材の必要要素

子どもと音楽活動を展開する上で必要なピアノ力とは何であるのか。本来、教育・保育現場で活用できるピアノ力は二つに大別される。一つはしっかりと読譜をして、正しくしかも表情豊かに表現できるピアノ表現力である。もう一つは、対象者やその活動内容に合わせて即座にアレンジできるピアノ即興力である。

本稿では、前者のピアノ曲学習におけるピアノ表現力養成に視点を置いて、論を進めていくものとする。筆者らは、教育・保育現場でピアノ曲を活用、応用することを目標にするため、ピアノ表現力の養成には、テクニックの他に以下の3つの要素が必要であると考えた。その要素は、「読譜力」「音楽を身体で感じる能力」と「イメージ力」である。尚、テクニックは表現力を支える重要な要素であるが、別の観点からの研究となるため、本教本では、テクニック以外の表現力養成に必要なこの3つの要素に焦点を当て、教材に織り込むことにした。

まず「読譜力」について述べる。ピアノにおける読譜とは大譜表で書かれた音符の高さや長さをすばやく読み取り、リズムや拍やメロディを認知する。また、音符の読み取りに加え、表現に必要なフレーズ感や、ダイナミック、音楽記号や表情記号に表されていることも理解し、曲を正しくかつ全体の表情が読み取れる力である。譜面を読み取る目を育てることが、ピアノ教育の基礎部分として必要であり、そうすることで表現力が身に付くと考える。

次に「音楽を身体で感じる能力」について述べる。かなり多くの学生は音符を頭の中では理解できるものの、手や足でリズムを叩いたり、拍を取ったりすることに苦手意識があり、抵抗を感じている。例えば楽譜を文字情報で読み取ることができても、それを腕や手の動きに変え、鍵盤に移さなければ音楽を表現することはできない。その際にどうしても必要なものが、拍、テンポやリズムを体の中に感じ、身体活動に変える能力である。体で感得できないものは、体の一部である手や指先で表現することは極めて難しいと考える。ジャック＝ダルクローズの理念からもこの「音楽を身体で感じる能力」についての重要性は窺える。

ジャック＝ダルクローズは身体の動きを通して、音楽を感受する耳を獲得することを目指した「リトミック」という音楽教育方法を創案した。音楽を感受する良い耳を育てるために、彼は「重要なことは子どもが音楽を単に耳から吸収するのではなく、からだ全体で感じ取るように教育されるべきなのである。聴感覚(aural sensations)は、それを完全にするために、筋肉感覚(muscular sensations)、つまり音の響きが浸透することによってつくられた生理的な現象が必要である」<sup>3)</sup>と述べている。伊藤は、それを受け「幼児期におけるのぞましい音楽経験のあり方は、演奏技術の向上に重点を置いた音楽指導からではなく、むしろ音楽の基本的概念、音楽を彩る様々な要素を、まずはからだの動きを通して音楽表現するところから始めることが先行すべきである」「リトミックの教育の理念は、いわば幼児の心身の成長、そして音楽的発達の特性に即しておりまた、保育者養成で学ぶ学生の音楽能力の育成にも効果をもたらすことができるのではないだろうか。」<sup>4)</sup>とも述べている。また、福島は「ジャック＝ダルクローズは子どもの音楽的な能力は、子

ども自身に生来的に拍子感としてのリズムの要素をもち、その根源であるリズムを基本とした教育によって、幼児に音楽的感覚を目覚めさせ、それを身体的に発達させていくとし、すべての子どもの音楽的才能を身体の筋肉の動きを通して発達させ、音楽的な表現を豊かにしようとしたのである」<sup>5)</sup>と述べている。

これらから学生にとっても、将来の現場において子どもの表現能力を引き出し養成していくためには、音価や拍、動きを表すリズムを中心に音楽をより身体の中に浸透させながら、ピアノ曲を学習させることが必要不可欠であると考えられる。

最後に「イメージ力」である。イメージ力とは音、メロディ、リズムから連想させるもの、メロディとベースリズムの組み合わせからくる音楽のテクスチャーや、ハーモニーからくる響きや色彩感について、いろいろにイメージを膨らますことができることである。

授業での学生の様子をみると、ピアノ経験が十分であるにもかかわらず、演奏が機械的で面白みの無い表現になってしまっていることがある。その要因として、表現しようとする意識が低いことや、読譜したものからイメージする力が弱いことが考えられる。また、逆にイメージする力が弱いから、表現する意欲も育たないのであろう。恐らく今までに、イメージを持ちながら表現しようとする意識や経験が足りないためだと推測される。

イメージ獲得のためには、ピアノ学習の際に、読譜された音楽構成要素などの組み合わせから、自分なりのイマジネーションで、曲の世界を構築し創造していく過程こそが重要であると思う。その過程において、心でイメージを抱くだけでなく、言語表現やイラスト表現などの別の表現活動とも合わせながら、自分なりに表現したい世界を築きあげ、演奏につなげていくことが、ピアノ表現力の向上に結びついていくものと思われる。またそれがピアノ演奏への意欲に繋がるものと考えられるのである。斎藤は「音楽的成長とは、音楽に対して詩的に感応し、音楽の詩的価値を美しく且つ的確に表現する能力の発達を意味する。それはまた、音のリズムや旋律などによって表現されている音楽的メッセージに対する感性的認識が育っていく過程でもある。」<sup>6)</sup>とも述べている。

以下に、ピアノ表現力の養成の構造を図式化した(図1)。様々な音楽構成要素を読譜し、それらを身体で感じ取り、合わせてイメージを持つことが大切である。これらの3要素である「読譜力」「音楽を身体で感じる能力」「イメージ力」は、順次段階を追って養成していくものではなく、本来は同時に養成されるものである。また、それぞれの能力の養成には、各々の要素が相関関係にあると考える。

読譜で内的に音楽を感じ取り、それを身体で感じて初めて音楽が息づき、生きた音楽として表現される。逆に、音楽を体全体で感じるには、音楽構成要素や音楽知識などが読み取れる読譜力が必要となる。また、表現の際、読譜がしっかりとできていなければ、楽譜情報が少ないためイメージ起しができず、無味乾燥な表現になるのは言うまでもなく、イメージがしっかりとつかめなければ身体表現には結び付いていかないと考える。つまり、どれ一つ欠けることなく、これらの要素が三位一体となり、しっかりと融合させることで豊かな表現力につながるのである。それに加えテクニック力が備われば、申し分ないことである。

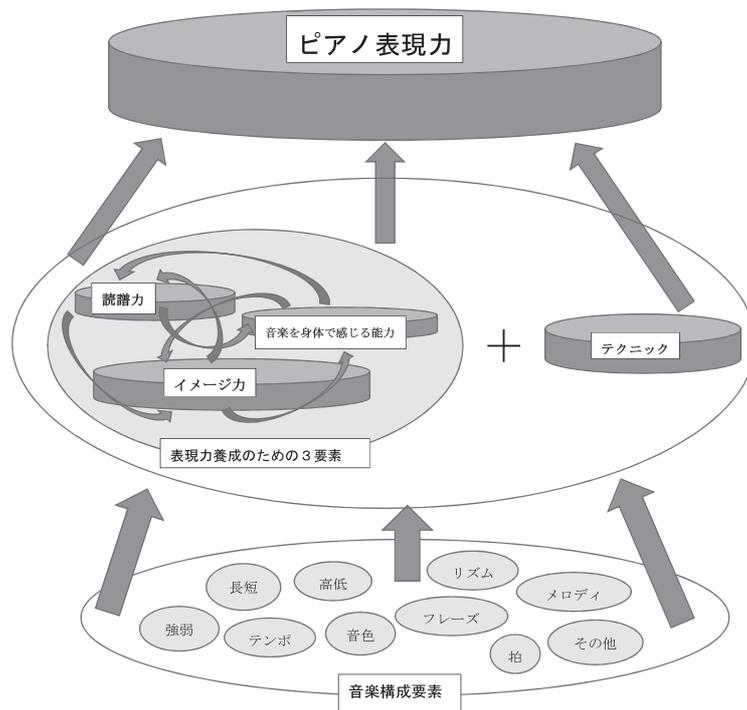


図1 ピアノ表現力養成の構造

#### 4. 作成に当たって

先に述べたように、学生に体得してほしいピアノ表現力のための必要要素は次の3点である。

1. 読譜力
2. 音楽を身体で感じる能力
3. イメージ力

筆者らはこれらを学生に学ばせ、それが現場でも活用できるものであることを念頭に置き、ピアノ教本『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』をⅠ基礎的な動き・Ⅱ自由表現・Ⅲ総合表現の3部構成として作成した。全容は表1の通りである。

次に特徴を示す。

- 1) [Ⅰ 基礎的な動き]・[Ⅱ 自由表現] の選曲ポイント

- (1) 身体表現に結び付けられる曲である。

[Ⅰ 基礎的な動き] ではリトミックの基本的な動きである「歩く」「走る」「とぶ」「ゆれる」をテーマとし、[Ⅱ 自由表現] では「動物」「乗り物」「感情」「物語・情景描写」をテーマとして、保育現場でリトミックへの活用や子どものごっこ遊びや劇あそびに応用できる曲を入れた。

[Ⅰ 基礎的な動き] では伴奏音符を「歩く」が4分音符、「走る」が8分音符中心の曲とし、さまざまな歩き方や走り方がイメージできるよう、伴奏形の種類として和音伴奏、リズム伴奏、分散和音伴奏など様々な形のものを選んだ。「とぶ」ではつま先で跳ぶ、大きく跳ぶ、スキップやギャロップができる曲、「ゆれる」では大きく2拍子に感じられるゆったりした4拍子や8分の6拍子の曲、また3拍子のワルツ・メヌエットなどを選択した。

[Ⅱ 自由表現] のテーマ「動物」「乗り物」では、身近な題材で動きや状態などをイメージしやすい曲を選んだ。「感情」では嬉しい、楽しい、悲しい、さびしい、不安、恐れなど喜怒哀

表1 ピアノ教本『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』

	テーマ	★ オリジナル 曲名	C D 番号	曲名 (原曲名)	作曲者	時代 (西暦)	拍子	調	特徴
I 基礎的な 動き	歩く		CD1	妖精の宮殿	トンプソン	1889-1963	4/4	F:	マーチ・強弱・和音の変化・ファンファーレの響き
				パースデー・マーチ	ケーラー	1820-1886	4/4	G:C:	3部形式・伴奏形の変化(和音・リズム)・弱起
				闘牛士の歌	ビゼー	1838-1875	4/4	F:	和音伴奏・力強さ・タイ
				凱旋行進曲	ヘンデル	1685-1759	4/4	G:	重音のレガート奏・重々しさ・分散和音
				ライオンの大行進	サン・サーンス	1835-1921	4/4	a:	ゆったりした力強い動き・8va・・・
				ウィンナ・マーチ	ツェルニー	1791-1857	4/4	C:F:	3部形式・古典・伴奏形(和音・リズム)・音階
	走る	★	CD2	ぶんぶんぶん	ボヘミア民謡	—	2/4	F:	スタッカート・重音・分散和音伴奏
				みつばちマーチ	外国曲	—	2/4	F:	跳躍したリズム伴奏・スタッカート
				かけ足(ツェルニー100番練習曲より)	ツェルニー	1791-1857	2/4	C:F:	8分音符の和音伴奏・力強さ
				チクタク時計	ツェルニー	1791-1857	4/4	C:G:	転調・8分音符の分散和音伴奏・スタッカート
				急がなくなっちゃ(ソナチネ Op.36, No.3 第3楽章)	クレメンティ	1752-1832	2/4	C:G:	重音・リズム伴奏・16分音符の細かい動き・ソナチネ形式
				紡ぎ歌	A.エルメンライヒ	1816-1905	2/4	F:	スタッカートの軽快な伴奏・メロディ部分の左右移動
	とぶ	★	CD4	バッタのおやこ(フーガ)	カバレフスキー	1904-1987	3/4	C:	フーガ・左右の模倣奏・ダウンアップ
				キラキラ星変奏曲	フランス民謡	—	2/4	C:	Ver.1 スキップ Ver.2 大きなジャンプ
				立ち幅跳び(ツェルニー第1課程練習曲より)	ツェルニー	1791-1857	4/4	G:	左16分音符の速い動き・2小節のフレーズ
				ハイキング	岩間 稔	1938-	4/4	G:	スキップリズム・音階
				はずんではずんで(ツェルニー30番練習曲より)	ツェルニー	1791-1857	4/4	C:	スキップ(ギャロップ)・3連符(原曲:拍子2/4・音価1/2)
				ホップ ステップ ジャンプ	湯山 昭	1932-	2/4	D:g:	3連符・転調・メロディ左右移動・物語のある現代曲 前打音
	ゆれる	★	CD5	楽興の時	シューベルト	1797-1828	2/4	f: As: F:	リズム伴奏・スタッカート・軽快なジャンプ・転調・古典
				まねっこあそび	外国曲	—	6/8	D:G:	転調・楽しくスイング
				モルゲンレーテ	ドイツ曲	—	3/4	G:	ワルツ・リズム伴奏
				子守歌	シューベルト	1797-1828	4/4	G:	レガート・穏やかなゆれ・2拍子的・反転リズム伴奏
				メヌエット	バッハ	1685-1750	3/4	G:	優雅な舞曲・ポリフォニー・バロック・装飾音
				大きなうねり(ツェルニー第1課程練習曲より)	ツェルニー	1791-1857	6/8	F:	大きな動き・アルペジオ
				シュタイヤー舞曲	ブルグミュラー	1806-1874	3/4	G:e: C:	ワルツ・リズム伴奏・軽やかな踊り・転調
				ワルツ	ショパン	1810-1849	3/4	a:	ロマン派・リズム伴奏・装飾音・トリル・ペダル
				ヴェニス舟歌	メンデルスゾーン	1809-1847	6/8	fis:	ロマン派・美しいメロディ・なめらかでゆれるような伴奏
メヌエット				ベートーヴェン	1770-1827	3/4	G:	3部形式・古典・レガートな重音	
II 自由表現	★	CD9	やあ!くま君(ツェルニー100番練習曲より)	ツェルニー	1791-1857	4/4	C:	重くゆったりした動き(原曲は2オクターブ上)	
			かえるのコララス	トンプソン	1889-1963	3/4	G:	大きい小さい(強弱)の表現・手の交差	
			小鳥	ツェルニー	1791-1857	3/4	C:	前打音(鳴き声)・強弱・音階	
			いもむしとちょうちょう	なかだよしなお	1923-2000	4/4	c:C:	レガート・スタッカート・対照的な動きの動物表現・同主調	
			ペンギンちゃんがやってくる	石井 欽	1921-2009	4/4	C:	ペンギンの歩き方・動き・臨時記号・無調的な響き	
			ぞうさんランニング	服部公一	1933-	4/4	A:	クラスター・臨時記号・速度変化・アクセント	

II 自由表現	乗り物	★	にしきへびボワッ	服部公一	1933-	4/4	c:	半音・不気味さ・半音・くねくね這い回る動き	
			CD13	がちょうのガボット	斎藤高順	1924-2004	2/2	C:	不協和音・スタッカート・鳴き声、よちよち歩き表現
		★	CD14	大きなぶらんこ (ワルツ)	ブラームス	1833-1897	3/4	G:	レガート・大きなゆれ
				メリーゴーランド (ピアノの練習ABCより)	外国曲	—	6/8	F:C:	同じ音型の連続・ダウン・アップの動き
		CD15	バルカローレ	ハック	1852-1917	6/8	a:F:	3部形式・テンポ変化・重音・レガート・物語性	
			ティーカップ	湯山 昭	1932-	3/8	E:	臨時記号・テンポ変化・くるくる回る楽しさ	
	アレグロ貨物列車		湯山 昭	1932-	4/4	F:	スタッカート・力強さ・スピード感・物語性		
	CD16		スピード自動車	なかだよしなお	1923-2000	4/4	A:D: G:	3部形式・左手の速い動き・転調・不協和音	
	感情	CD17	ひとりぼっち	なかだよしなお	1923-2000	4/4	a:A:	転調・強弱・さびしさ・気持ちのゆれ	
			やさしい花	ブルグミュラー	1806-1874	4/4	D:	ダウンアップ・なめらかさ・優しさ・装飾音符	
		CD18	ブードルのおさんぽ	内田勝人	1940-1997	4/4	C:	3連符・半音階・しゃれて気どった動きを連想	
			ワン・ツー・サンバ	橋本晃一	—	2/2	C:	サンバリズム・ユニゾン・スタッカート・繰り返し記号	
		CD19	人形のお葬式	チャイコフスキー	1840-1893	2/4	c:	和音の変化・重苦しい・悲しみ	
			楽しき農夫	シューマン	1810-1856	4/4	F:	楽しい・軽快・メロディの左右移動・音量バランス	
		CD20	心配	ブルグミュラー	1806-1874	2/4	e:G:	速く動く一定の音形・不安・心の揺れ	
			雨の日に	三枝茂彰	1942-	4/4	a:e:	レガート・タイ・伴奏形の変化・感傷的・物思いにふける	
		物語・情景描写	CD21	土人のおどり	なかだよしなお	1923-2000	4/4	a:	一定の伴奏形・スタッカート・手の交差・力強さ、太鼓の表現
				水すましの輪がゆれる	湯山 昭	1932-	6/8	F:	レガート・2拍子に捉える・ゆったりしたゆれ
	CD22		道化師	カバレフスキー	1904-1987	2/4	A:	飛び跳ねるスタッカートの伴奏・微妙に変化する右の音	
			地球のうら側まで土を掘る	佐藤敏直	1936-2002	2/4	C:	対照的な左右の動きの連続・ダウンアップ・前打音	
CD23	狩猟		ブルグミュラー	1806-1874	6/8	C:a:	ロンド形式・ホルンの響き、馬の走る様子、悲しみ		
	サンタクロース		奥村 一	1925-1994	4/4	C:	物語性が強い「ジングルベル」の曲使用・ベダル		
CD24	貴婦人の乗馬		ブルグミュラー	1806-1874	4/4	C:F:	3部形式・様々なリズム・両手音階・馬の走る様子、情景描写		
	空気の精		ブルグミュラー	1806-1874	3/8	g:G:	素早い動き、美しい緩やかなメロディとの対比		
CD25	大雷雨	ブルグミュラー	1806-1874	4/4	d:D:	強弱、激しさ、不気味さ、穏やかさ			
	バレエのおけいこ	石井 欽	1921-2009	4/4	C: As:	休みなく続く細かい動き・音階・レガート			
その他の名曲	CD26	アラバスク	ブルグミュラー	1806-1874	2/4	a:	16分音符の音型の繰り返し		
		ビューティフル・ドリーマー	フォスター	1826-1864	9/8	C:	ゆったりした美しいメロディ・レガート・伴奏形の変化		
		トロイメライ	シューマン	1810-1856	4/4	F:	美しく穏やかなメロディ・和音の色の変化		
		はないちもんめ	奥村 一	1925-1994	4/4	日本の音階	日本的な音の響き・弾んだリズム		
		ガヴォット	ゴセック	1734-1829	4/4	D:	3部形式・スタッカート・跳躍した伴奏		
		主人の望みの喜びよ	バッハ	1685-1750	3/4 (9/8)	G:	ゆるやかに波を描く音の動き・テヌート		
		エリーゼのために	ベートーヴェン	1770-1827	3/8	a:F:	ロンド形式・レガート・テンポ変化・ポピュラーな名曲		
III 総合表現	CD27・28	イメージペイント 作：加藤照恵 (使用曲) ・いもむしとちょうちょう ・アレグロ貨物列車							
	CD29～40	ピアノお話ワールド「遠足」 作：本廣明美 (使用曲) ・いいことがありそう! ・メリーゴーランド ・小鳥 ・ハイキング ・水すましの輪がゆれる ・紡ぎ歌 ・ペンギンちゃんがやってくる ・大雷雨 ・急がなくっちゃ ・ワンツーサンバ ・子守歌 ・ハイキング							

※ CD1～CD40 は付録の CD に収められている曲である。

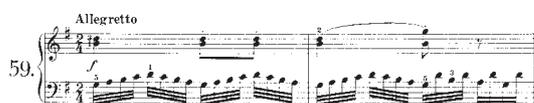
楽が表現された曲を選択し、「物語・情景描写」では1曲の中に物語の展開を感じられるものを選曲した。

(2) 標題のある曲とする。

イメージ力を高めるためにできるだけ標題のある曲を選んだ。表1の★で示している9曲は、元はソナチネやツェルニー練習曲など標題のない曲であったが、学習者が想像を膨らませやすいようにオリジナルの標題をつけた。例えばテーマ“とぶ”の中の「立ち幅跳び」と標題をつけた曲の原曲は、『ツェルニー第1課程練習曲』に収められている曲で、譜例1のとおり元は4分の2拍子の曲であったが、譜例2のように4分の4拍子として音価を倍にしたものである。2小節が一つのフレーズとなっており、1小節目は腕を振って跳ぶ準備をしている様子、2小節目ではできるだけ遠くに跳ぶ様子をイメージして「立ち幅跳び」と名づけた。左手の16分音符の速い動きがあるのでテクニク練習ともなっている。また、テーマ“乗り物”の中の「大きなぶらんこ」の原曲はブラームスの「ワルツ op.39-15」であるが、1小節をぶらんこが前あるいは後ろにゆれる一つの動きと捉え、大きく前後に揺れているぶらんこをイメージした。子どもがぶらんこに乗って、もっと大きくもっと高く天まで届けと思いを込めて漕いでいる姿を思い浮かべることができるであろう。

譜例 1

『ツェルニー第1課程練習曲』



譜例 2



(3) あまり長くなく難しくない曲である。

読譜力を高めることをねらって1～3ページ程度の、バイエル中級～ソナチネ中級程度のあまり難しくないものとし、短期間にできるだけ多くの曲を練習できるようにした。そうすることで、さまざまな音符、リズム、テンポ、奏法などを学習することができる。実際の授業では2週間に1曲を学習することを目標としている。

(4) 童謡に多く使われている調の曲を多く入れる。

童謡にはハ長調、ヘ長調、ト長調が多く使われているため、本教本にもこの3つの調を多く採用し、弾き歌いや簡易伴奏付け学習との関連を持たせるようにした。童謡曲の読譜力をつけるための効率化にも繋がると考える。本教本に収められているのはハ長調20曲、ヘ長調12曲、ト長調12曲、その他の長調8曲、短調17曲、日本の音階1曲である。童謡には短調の曲はあまり多くないが、ごっこあそびや劇表現などでは使うことが多いため意識的に多く入れたものである。

(5) バロックから現代曲までさまざまな時代の曲を入れる。

さまざまな時代の曲を入れることで、形式や様式、響きの違いを感じられるようにした。形

式の整った古い時代の曲から自由な表現のロマン派の曲、独特なリズムや不協和音またクラスターなどの奏法のある現代曲、邦人の作曲家の曲など偏りなく入れている。

(6) 名曲を入れる。

学習者が耳にしたことがある有名な曲や、以前から弾いてみたいと思っていた曲であれば、意欲を持って練習に取り組むことができるであろう。例えば簡単にアレンジしたものや原曲がピアノ曲ではなくても、楽しく弾くことができ名曲を知るきっかけにもなるのではなかろうか。これらのことから、できるだけ多くの名曲を入れるようにした。

(7) 保育に生かすためのヒントを入れる。

ピアノ曲を学習するのは、保育の現場で童謡の伴奏を弾くためのテクニックを身につけるためであると決めつけるのではなく、ピアノ曲を保育活動の中にも積極的に取り入れて欲しいと考えた。そこで、楽譜の下に「イメージとあそびかた」として、その曲の応用の方法やイメージの例を示した。学習者が曲をイメージする際の参考としたり、自分自身のイメージを描き演奏の幅を広げたりするため、また現場に出て子どもと遊ぶ際に、その曲を使用するためのヒントとなるようにした。

(8) テーマごとに難易度の違う曲を入れる。

学習者のピアノ力のレベルの違いに配慮し、各テーマ（歩く、走る、跳ぶ、ゆれる、動物、乗り物、感情、物語・情景描写）に難易度の易しい曲から順に6～9曲ずつ配列した。各テーマから自分のレベルに合った曲を選び、無理なく学習を進めることができるようにした。

2) [Ⅲ総合表現] について

この総合表現においては、特にイメージ力養成を主眼においた。前述したように、筆者らは表現力のための必要要素として3つの力を示した。そのうち、「読譜力」と「音楽を身体で感じる能力」を体得するために鍵を握ると考えたのが、「イメージ力」である。

リズム、音高、強弱記号や表情記号、繰り返される音型など、楽譜に書かれたすべてを読み取る丁寧な読譜をすることでイメージを作り上げることができる。それを表現するためにはどのような腕の動きや打鍵をすればよいか、どのようなアーティキュレーションをつければイメージ通りの演奏ができるかと、体と対話し耳を澄ませて練習をする。そのようなイメージを常に持った練習過程を通して、自ずと演奏テクニックを身につけることができ、心や体で音楽を感じ取ることができる。また、身につけたテクニックと心や体で感じ取る力をもって自分の思い描いた表情豊かな演奏ができ、聞いている人にも思いを伝えることができる、という相互作用を期待するものである。雁部は次のように書いている。「すべてに先立つものは、何をどのように表現したいかという音楽的イメージです。これがなければ楽器を演奏する意味がありません。音楽的イメージを豊かにするためには、何よりも楽譜を深く読むことが大切ですが、これは単なる情報として正確に読むということではなく、その音楽が内包する様々な音表情を感じとりながら作品全体を構成するということです。」<sup>7)</sup> また、奥はイメージの大切さ、何を表現したいかという演奏者の思いの大切さについて、シューベルトの Op.90 - 4《即興曲》を小学校3、4年生の子どもが演奏する場合に「マッチ売りの少女」をイメージした例を挙げている。「例えば幼い頃親が読み聞か

せしてくれた「マッチ売りの少女」「フランダースの犬」など、子供ながらに涙を流して感動した内容で「演奏」して良いのです。冒頭の Moll で始まり、転調を繰り返す部分、粉雪が舞っているような右手、合間に現れる溜息のような音型、その後の上昇形は夢を追い求める少女の気持ち、さらにその後三連符でほんの数小節現れる温かいメロディのところは、マッチをシュッと点して現れる優しいおばあさん。子供なりの感動からくる演奏であっても、我々大人が感銘を受けた時、その子供から宝物を貰うことになります。」<sup>8)</sup>と述べている。

それではイメージとは何かということであるが、日本語大辞典（講談社）によると、イメージという言葉の意味は「人が心の中につくる姿・形象。心象。表象。映像。イマージュ。」<sup>9)</sup>とある。自分の抱くイメージは心の中にあり、それを他の人に伝えるのはなかなか難しい。しかし、ピアノを演奏する時や指導する場面では、曲のイメージを表現したり相手に伝えたりするために「…のようななめらかさ（激しさ）」とか「…の感じ」というように、視覚、触覚、聴覚などの五感や感情などに関する比喩を用いることがよくある。思いを伝える手段として、経験に結び付けて言語表現化することで、相手の心の中に五感や感情の記憶として甦らせ、さらにイメージを膨らませることができるのである。このように我々は自分の抱く思いを、言葉により他の人に分かりやすく伝えられるということを経験上知っている。これは自分自身の音楽に対するイメージを豊かに膨らませ、演奏に生かす際にも有効であると考えられる。イメージを言語表現することによって、自分の心の中にあった漠然としたものを目の前に引っ張り出して明確にし、その根拠となる楽譜上の要素・構成と関連づけて認識することができるようになる。それが表情豊かなピアノ演奏につながるのではないだろうかという思いから、本教本では言語表現との関連においてイメージ力を養成することを考えたのである。

それでは『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』<sup>10)</sup>の領域「表現」の「ねらい及び内容」には、表現力やイメージや感性はどのように示されているであろうか。

#### 幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容

##### 【表現】

[感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。]

##### 1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

##### 2 内容

- (1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領

満1歳以上満3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

オ 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

(ア) ねらい

- ① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。
- ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとする。
- ③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。

(イ) 内容

- ① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。
- ② 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ。
- ③ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。
- ④ 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。
- ⑤ 保育士（保育教諭）等からの話や、生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにする。
- ⑥ 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する。

3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

オ 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

(ア) ねらい

- ① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

(イ) 内容

- ① 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりなどして楽しむ。
- ② 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- ③ 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- ④ 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- ⑤ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- ⑥ 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- ⑦ かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- ⑧ 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』では、番号表記が1ねらい (1) (2) (3) 2内容 (1)～(8) となっている。  
下線は筆者が引いたものである。

上記の表中の下線で示すとおり、いずれのねらい及び内容にも他の領域と関連付けながら「自分なりに表現すること」「イメージを豊かにすること」「豊かな感性を持つこと」が繰り返し書かれ、幼児教育にとってこれらがいかに重要であるかが分かる。保育者は表現に関して上記のねらいを持って保育を行わなければならないが、まず自分自身の感性やイメージ力、表現力が豊かであるかが問われるであろう。したがって将来子どもたちの教育・保育に携わる学生は、子どもたちに育まなければならないことを意識し、経験を通してその力を高めていかなければならないのである。

そのような観点から、本教本の〔Ⅲ総合表現〕では、ピアノ演奏を学ぶ際にイメージを豊かにし表現力を高めていくために効果があると考えられる二つの方法を「イメージペイント」と「ピ

「ピアノお話ワールド」と銘打って、その例を示した。「イメージペイント」とは練習過程においてイメージ作りを重視することで、表現力を高めようとするものである。また「ピアノお話ワールド」は学習した数曲を使ってイメージを膨らませて1つの物語にまとめる方法で、現場での応用、活用へと導くものである。

#### (1) 「イメージペイント」

標題や曲の構成要素や雰囲気からイメージを広げ、情景描写やストーリーを創作したり、あるいは曲そのものからイメージをふくらませて元の標題とは違う標題をつけたりするものである。これは先に述べたように、イメージを持つことが、読譜力を身に付けることや体で音楽を感じることに、テクニックの習得に効果的に作用し、ひいては表現力豊かな演奏ができるようになるとの考えからである。武本の提唱する「イメージ奏法」では、「楽譜から作曲者の意図をくみとる（作品の背景を調べる・楽曲分析をする）→演奏したいイメージを明確にする（イメージを表す言葉を探す・イメージ語から物語を作る）→具体的な奏法を見つける（表現曲線を加える・表現曲線にもとづいて楽譜に色をぬる）→「演奏設計図」を完成させる→イメージどおりの演奏をめざして練習する」<sup>11)</sup> という細かい段階を踏んだかなり時間をかけての学習であり、演奏も完成された高度なものを目指しているようである。しかし、筆者らが目指すのは、経験の少ない学生も短時間でさまざまな様式や形式、曲想などを持った曲をできるだけ多く学習することで、読譜力や音楽を身体で感じる能力、イメージ力を身につけられることであり、最終目標としては保育の現場に生かせる表現力を習得することである。学びの先には「子どもと音楽を共有すること」が待っているということを忘れてはならない。そのため、子どもが空想の世界を持ってごっこ遊びを楽しむように、学生にもピアノ曲を学習する過程で、子どもの世界の追体験をしてほしいと考えたのである。曲の標題や音の動きやリズムからイメージを呼び起こし、自分なりの世界を作り上げていく。その世界を表現するためにはどのような音がふさわしいか、どのようなテクニックが必要かを認識し、豊かな表現を目指して練習を積み重ねる。そうすることで、意欲を持って練習に取り組むことができ、一つ一つの音の表現に思いが込められた演奏となるであろうし、テクニックの向上という点でも効果的であると考えられる。

そのような考えの下、ここでは曲全体に短い物語をつけるという一步進めた形のものを選択した。同じ曲に対しても学習者の実体験や読書体験、性格等により感じ方や表現の仕方が違い、そこからの各人の想像の広がりや物語の作り方が幾通りもあるはずである。指導者からの一方的な助言や指導ではなく、学習者が思いを自分自身の言葉で表現することが、学習意欲の向上と演奏力の向上のために重要であると考え言語表現としたのである。したがって、楽譜にはさまざまな音の動きや、テンポ、強弱、表情などを示す記号があるが、学習者が考える物語によってはそれを表現する言葉に違いが生まれるであろう。例えば楽譜上に dolce とある部分でも、「やさしい、おだやか、ものしずか、やわらかい、なめらか、ゆったり等」の違いが生まれたり、cresc. では「次第に物が膨らむ、次第に感情が高まる、次第に近づく等」ストーリーの展開上さまざまな言語表現が考えられたりするるのである。教本には次の2つの作品例を示した。

作品 1

イメージ ペイント

27 いもむしとちょうちょう

(1~10 小節)  「ぼくはいもむし。いつも葉っぱの上をはいずりまわってるんだ。いつになったら、きれいなちょうちょうになって、自由に飛び回れるんだらう。アーア・・・」

(11~17 小節)  「私の目ぼの羽よ、きれいでしょ！ どこにだって飛んでいけるのよ。あつ、きれいな花み一つた！ 行ってみましょう。」

(18~25 小節)  「いいな・・・たのしそうだなあ。それに比べてぼくは・・・  
・・・でも、ぼくだって、いつかはさっど。」

Musical score for 'いもむしとちょうちょう'. It features piano accompaniment with a 'Slowly' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

「いもむしとちょうちょう」

この題名どおり、2つの対照的な動物の動きが表現されている。この曲は大きく3部に分かれているが、1部の「Slowly」と3部の「はじめのはやさで」の短調部分はいもむしの表現、2部の長調で「はやくかへて」の部分はちょうちょうの表現とはっきり分かれている。例ではこの2匹の動きに合わせて、2匹がどのような気持ちなのかをイメージしてせりふで表してみた。

作品 2

28 アレグロ貨物列車

貨物列車がたくさん荷物を積んで走っています。

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

「よし！ 力を入れてがんばると！」

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

やがて、そよ風の吹く広い野原にやってきました。 「あー、なんて気持ちいいんだ。」

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

「ホッポー！」 「みんな見て見て、ぼくの走り。」

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

©2013 A3 MUSIC

「どうだい！ こんなにすごいスピードで走れるんだよ。」

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

貨物列車は野を越え・・・山を越え・・・街を過ぎ・・・

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

やがて駅に到着しました。 「ぼんざーい、若いぞ！！」 ゴットン！！

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

「みんな見て見て、ぼくの走り。」

Musical score for 'アレグロ貨物列車'. It features piano accompaniment with an 'Allegro' tempo marking. The score includes a treble clef and a bass clef. There are several dynamic markings such as 'p' and 'cresc.'. The score is written in a key signature of one flat (B-flat major or D minor) and a 4/4 time signature. There are some handwritten annotations in Japanese, including 'はやくかへて' and 'はやくかへて (はやく)'. The score ends with a fermata over the final note.

 みんな通った貨物列車の様子を思い浮かべて、移りゆく時間の景色と対比して、貨物列車の足音のイメージをイメージして作られた。

**作品2** 「アレグロ貨物列車」これは香山美子作詩・湯山昭作曲の童謡「かもつれっしゃのうた」<sup>12)</sup>のピアノ曲版であり、この歌の歌詞は次のようである。

1. ダダダン ダダダン ダダダン ダン ※ (くりかえし)  
かもつれっしゃが はしる はしる  
(モオーッ) うしさんと (ヒビーン) うまさんと  
(ゴツツンツン) せきたんと (ブブウ) 大型バスをのせて  
みんな みんな はしる  
しゃしょうさんは いつも いちばん あとから  
ダダダン ダダダン ダダダン ダンとはしる
2. ※ かもつれっしゃが カーブ カーブ ★
3. ※ かもつれっしゃが とまる とまる ★  
(ガシャ ガシャーン)

これを、本教本の例では力強く走る貨物列車と周りの景色の移り変わりの様子、それと共に変化する貨物列車の気持ちを表すせりふをイメージして示している。

## (2) 「ピアノお話ワールド」

ピアノ表現力養成のために、総合学習として「ピアノお話ワールド」という音楽創作物語の作成を行うものである。具体的に言うと、簡単なお話を創作し、場面ごとにふさわしい音楽をピアノ曲で綴りながら構成する音楽物語である。この創作の実践は、4年生の後期に授業「鍵盤表現研究」として開講し、「読譜力」「音楽を身体で感じる力」「イメージ力」を総合的に身に付ける意味で、4年間のピアノの表現力養成の集大成として位置づけている。

手法としては、まずお話を作り、その後お話に沿って雰囲気や時間経過を表すための効果音や効果音楽として使用する曲を選択し、ピアノ表現と言葉表現とのバランスを考慮し作成する。作成においては下記の条件を課した。

- ① 曲の全体を使用するか一部を使用するかは、お話の長さや入るタイミングで決めること。
- ② ピアノ曲のメロディや拍、調、リズムアレンジは基本的には行わない。ただし、“テンポ” “音域” “レガートやスタッカートなどの奏法” についてのアレンジは意識的に行うこと。

本稿では、学生の学習の一つの手がかりとなるよう後述の、**作品3**に示す「遠足」を例に示した。このピアノ教本『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』に掲載されているピアノ曲を使用して、音楽物語を書き下ろしたものである。この作品は12のピアノ曲をナレーションと台詞でつないでいる。

この「ピアノお話ワールド」は絵本の音付けにも使用できる他、動きや歌や効果音等を伴えば、劇表現やさらにはオペレッタへと発展させることができるであろう。

# 作品 3

## ピアノお話ワールド

CD 32

### 遠足

明日は遠足です。カエルのクロ子とさるのモン吉は、一緒にさんかく山に登ることにしました。とてももうき気分です。

モン吉「明日は楽しみだね。」  
クロ子「そうね。」



「いいことありそう」



© MONSIEUR SUIZOU SHIBUKAWA

作曲 野

CD 33

二人は早く登ることにしました。しかし、なかなか登りません。明日の楽しい遠足のこと、頭の中がいっぱいなのです。

「メリーゴーランド」



作曲 野



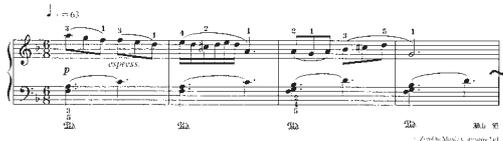
途中、お花畑がありました。



CD 34

クロ子「まあ、きれいな、お花畑。つんでいきましようか。」  
モン吉「そうだね、でもほくは、ここでちょっと寝そべて、おいしい空気をおなかいっぱい吸うよ。」  
風もいい気持ちです。

「水すましの鯨が泳げる」



© MONSIEUR SUIZOU SHIBUKAWA

作曲 野



CD 35

途中遊びすぎたので、時間が随分過ぎてしまいました。

クロ子「あら、たいへん、こんなに時間が過ぎてる。」  
モン吉「早く登らないとお腹になっちゃうよ。」

二人は山のてっぺんまで、急いで登ることにしました。

「初ぎ歌」



作曲 野

CD 36

さあ、朝です。小鳥の声で目が覚めました。

モン吉「おはよう。」  
クロ子「おはよう。気持ちいい朝ね。」



「小鳥」



作曲 野

(オクターヴ上げて、少し速く弾きます。)

CD 37

さあ、出発です。

クロ子「たのしみね。」  
モン吉「レッツ、ゴー。」

二人は元氣よく出発しました。

「ハイキング」



© MONSIEUR SUIZOU SHIBUKAWA

作曲 野

CD 38

しかし、モン吉はふざけて、木登りばかりしています。途中、木から滑り落ちることもあります。

クロ子「モン吉く〜ん、早くおいでよ。」  
モン吉「だいじょうぶだよ。その気になればすぐ行くよ。」  
といて、モン吉はなかなか木のほりをやめません。

クロ子「しょうがないわね。私は、少しずつ、登るとするわ。よいしょピョン、よいしょピョン」



「ペンギンちゃんが空でつくる」



© MONSIEUR SUIZOU SHIBUKAWA

作曲 野

モン吉「おっと、いけない。クロ子はもうあんな所まで行っている。急がなくなっちゃ。」

一生懸命登るクロ子をよそ目にモン吉は、みるみるまに登ってしまいました。一方、クロ子は、黙々と登りつづけています。



モン吉「おおーい、早く登ってこいよ！  
遅いなあ、クロ子は、もう待てない、お弁当食べちゃおーっと。」

さっさと登ったモン吉は、クロ子を待たずに、お弁当を食べ始めました。

CD 85

そこに、風が吹いてきました。  
あやしい雲まで出てきました。

さあ、大変、避くの方で、かみなりも  
鳴っています。だんだん音も大きくなっ  
てきます。  
きゅあー、かみなり！  
大粒の雨まで降り出してきました。



Allegro  $\text{♩} = 152$

PP *ritando*

「大雷雨」

ピアノ・エレクトロ



CD 87

モン吉「なんてこったい、お弁当がぬれてし  
まう。助けてくれーい」

モン吉は大あわてで、お弁当を片付けました。

Allegro

「急がなかつらや」

クレメンチナ

お弁当はびしょびしょになってしまいました。

CD 88

ケロ子は、雨が降って、逆に大喜びです。  
だってカエルなんですから。

ケロ子「雨だわ、雨だわ、何てラッキーなん  
でしょう。体が熱くてたまらなかったの、  
これで元気が出るわ。」



Allegretto

「ワン・ツー・サンパ」

ピアノ

CD 89

モン吉は、ケロ子を待たずにお弁当を食べようとして、悪いなあと思いました。  
モン吉はケロ子にあやまりました。ケロ子は、それを許してあげました。

Andante

「正守殿」

ピアノ

シューベルト

また、二人は仲良く、山を下りて家に帰りましたとき。

CD 40

Allegretto

「ハイキング」

ピアノ



おしまい

## 5. おわりに

将来子どもと活動する場面で子どもの音楽能力を引き出すには、ピアノを通してどのような表現力が必要であるのかを念頭に置きながら、教材のあり方に視点を当て、これからの教育・保育者養成のピアノ教本はどうあるべきかについて、論を進めてきた。

ピアノ教本の作成に当たり、その表現力養成の3つの必要要素として「読譜力」「音楽を身体で感じる能力」と「イメージ力」を掲げ、それらを総合的に、無理なく養成できるよう編纂した。そして、現場が必要とする表現力を想定し、教材であるピアノ曲の学習方法と活用方法を考案した。ピアノ曲を1曲でも多く、子ども達に生の音で届けることで、音楽活動の場で子ども達と一緒に遊びながら楽しさを共有して欲しいと考える。その思いからテキストのタイトルを『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』と名づけたのである。この教本が大いに教育・保育現場で活用されることを願いたい。

折りしも、文部科学省の学習指導要領の改正が示された。その改正の概要の中で、「知識及び技術の習得と思考力判断力、表現力等のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること」が述べられている。また、「(2) 知識の理解の質を高め資質・能力を育む“主体的・対話的で深い学びの実現”の項目の中で、“何ができるようになるのかを明確化”することが掲げられている。」「子供たちに育む“生きる力”を資質能力として具体化し、“何のために学ぶのか”という学習の意義を共有しながら授業の創意工夫や教科書の教材の改善を引き出していけるよう・・・」<sup>13)</sup>とも述べられてい

る。これは、養成する学生にとってもまったく同様である。何のために学習するのかという目的意識を持たせ、教える対象である子どもをしっかりと把握することが学生の主体性を生み、知識技能に加え、判断力や思考力、表現力につながっていくのだと強く思う。

そのためにも、学生が将来必要であろうピアノ力を身に付けるためには、教本のあり方が重要な鍵であるに違いない。ピアノを学ぶことを「生きる力」の養成につなげるために、教材の工夫や展開法が欠かせないものとする。引き続き、教本の検討や改善に努めていきたい。

#### <引用文献>

- 1) 本廣明美、加藤照恵『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人のための 基礎から学べるピアノ1, 2, 3』ドレミ楽譜出版社 2008 初版
- 2) 本廣明美、加藤照恵『保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』ドレミ楽譜出版社 2010 初版
- 3) エミール・ジャック＝ダルクローズ 『リズムと音楽と教育』板野平訳、全音出版社 1975 p.52
- 4) 伊藤仁美 『保育者に求められる音楽表現力の育成に関する一考察』こども教育宝仙大学紀要1 2010 p.9
- 5) 福島省吾 分筆 代表編著井口太 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 2016 p.69
- 6) 斎藤繁 分筆 代表編著井口太 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 2016 p.25
- 7) 雁部一浩 『ピアノの知識と演奏 音楽的な表現のために』ムジカノーヴァ発行 1999 p.57
- 8) 奥千絵子 『ピアノと向き合う 芸術的個性を育むために』春秋社 2010 p.9
- 9) 梅棹忠夫、金田一春彦、坂倉篤義、日野原重明 監修『日本語大辞典』講談社 1989 第1刷
- 10) 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省、厚生労働省、内閣府 平成29年3月告示
- 11) 武本京子 『武本京子の「イメージ奏法」解説書』音楽之友社 2013
- 12) 繁下和雄編 『幼児のうた100選』全国福祉協議会 1979 p.57
- 13) 『学習指導要領について』文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 平成29年4月